

## おもな学校行事予定(4月～6月)

|    | 大学                                                                                                                         | 高等学校                                                        | 中学校                                                                                                  | 小学校                                            |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 4月 | 4(火) 入学式<br>3/30(木)～8(土) オリエンテーション<br>1(土) オリエンテーション(法科大学院)<br>1(土)～7(金) 健康診断<br>5(水) 授業開始(法科大学院)<br>10(月) 授業開始(学部・その他研究科) | 7(金) 入学式<br>8(土) 始業式                                        | 7(金) 入学式<br>8(土) 始業式                                                                                 | 5(水) 始業式・入学式<br>28(金) 遠足                       |
| 5月 | 29(月) 学内陸上競技大会                                                                                                             | 2(火) 体育大会<br>29(月)～6/17(土) 教育実習<br>29(月)～6/1(木) 中間テスト<br>遠足 | 2(火) 遠足<br>29(月)～6/17(土) 教育実習<br>24(水)～26(金) 3年中間テスト<br>29(月)～31(水) 1・2年中間テスト<br>29(月)～6/2(金) 3年修学旅行 | 27(土) 運動会                                      |
| 6月 | 27(火) 学内競漕大会(レガッタ)                                                                                                         | 2(金) 遠足<br>12(月)～17(土) 文化部発表会                               | 1(木)・2(金)<br>1・2年イベント・見学会<br>12(月)～17(土) 文化部発表会                                                      | 6(火)～9(金) 2年夏の学校<br>17(土) 全校授業参観<br>26(月) 観劇の会 |

# SCHOOL JURIDICAL PERSON SEIKEI GAKUEN

## 成蹊学園 広報

第61号  
Spring  
2006

## 新年度を迎えて 創立100周年記念事業についてのご報告 ～成蹊学園の新たな創造を目指して～

### 【 CONTENTS 】

- 2 創立100周年記念事業について 専務理事あいさつ
- 3 新年度を迎えて 学長・校長あいさつ
- 6 桃李の人々
- 9 2006年度予算の概要
- 10 創立100周年記念事業募金局からのご報告
- 12 大学の近況
- 14 中学・高等学校の近況
- 16 小学校の近況
- 17 健康支援センターから
- 18 2006年度 入学試験状況
- 19 役職者／学園組織一覧
- 20 学校行事予定(4月～6月)／学習まんが『中村春二』のご紹介

学園内の桜並木

学習まんが

### 『中村春二～大正自由教育の旗手～』

のご紹介



表紙



中表紙

「我が国の近代教育史上、特筆すべき偉大な教育者は二人ある。一人は吉田松陰、一人は中村春二である」  
〔成蹊教育〕より

これは、戦後の初代東京大学総長で、著名な政治哲学者・南原繁(なんばら しげる)氏が残した言葉です。欧米の新教育運動の影響を受け、それまでの画一的な教育に疑問を持ち、子どもたちの自発性・個性の尊重が声高に叫ばれた大正期。後に「大正自由教育」と呼ばれる運動の中、成蹊学園創立者中村春二(なかむら はるじ)先生は日本伝来の僧堂教育に基づく全く新しい教育理念を掲げました。「心力歌」「信念法」「鍛錬主義教育」といった独自の教育方法の実践によって、春二先生は生徒たちの『眞我』、すなわち「心の奥底にある尊い心」の自覚を呼びかけました。教師の修養を重視し、また何よりも師弟の心が直接触れ合う人格教育、人間教育を目指した春二先生の教育方法は「成蹊教育会」を結成することでやがて全国へと広まっています。

この本には、「人間は、いかに生きるべきか」を自他に問いかけ、教育に全身全霊を捧げた春二先生の生涯が描かれています。皆様是非ご一読下さい。

『中村春二～大正自由教育の旗手～』発行：小学館 監修：成蹊学園史料館  
2006年2月21日 紀伊國屋書店より発売開始  
\*購入をご希望の方は、紀伊國屋書店成蹊学園ブックセンター  
(TEL:0422-36-0360、E-mail:sg00@kinokuniya.co.jp)までお問い合わせ下さい。  
ブックセンターでお申し込みいただくと、定価1,260円(税込)の10%引きでお買い求めいただけます。



### 成蹊学園広報

2006年4月1日 発行 学校法人成蹊学園 総務部広報課  
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 (0422)37-3517  
URL <http://www.seikei.ac.jp> E-mail [koho@jim.seikei.ac.jp](mailto:koho@jim.seikei.ac.jp)





# 創立一〇〇周年記念事業

## ―成蹊学園の新たな創造に向けて



委員長 橋本 竹夫  
成蹊学園 専務理事  
成蹊学園 将来構想検討委員会

このたび、加藤節前専務理事の後任として専務理事をお引き受けすることになりました。これまで専務理事補佐(財務担当)として二期六年近く加藤専務理事の職務を補佐しながら、一〇〇周年記念事業の一環として建設の決まった情報図書館の方向性の提案、学園の環境整備のあり方についての提案などを行って参りました。

成蹊学園が直面している課題は、言うまでもなく少子化社会の中でより加速している学校間の競争に耐えうる体質強化であります。今後二〇一二年の一〇〇周年記念の年に向けてさらに少子化が進む環境下で、高い競争力を維持することのみならず、さらに競争力を高めるための方策を継続して提案し実施していく必要性に迫られております。

学園は、この問題を一〇〇周年記念事業と併せて考え、現在、さまざまな新規事業を実施・検討しております。その第一は、情報図書館の建設です。小学校から高等学校

まで成蹊で学ばれた建築家坂茂氏に建築基本プランを依頼し、三菱地所設計と共同して設計と施工管理をお願いしております。この情報図書館は、キャンパス内にある伝統的なレンガの外壁を持つ建屋の雰囲気を保つ一方で、建屋内にはさながら宇宙空間に浮くサテライトのような複数のグループ閲覧室を有する斬新なデザインとなっております。また、省スペースと利便性を併せ持つ自動車庫を備えており、さらにデジタル化されたデータを通常の書籍と同等に取り扱うことができるなど、最新鋭の図書館として今年九月のオープンに向けて最終的な建設段階にあります。

第二は、丸の内地区におけるサテライト事業の展開です。法科大学院に在籍している社会人大学院生の講義聴講に対する利便性を向上させることが競争力を高め、ひいては司法試験合格の学力向上に資すると考え、丸の内地区にサテライト・オフィスを開設し、成蹊大学で実施される講義をリアルタイムで受講できる施設設備を提供することにしたしました。将来的には、その他の学園事業にも利用できるよう、さまざまな事業展開を検討しております。

第三は、さらなる教育の一貫化を推進中の中学・高等学校の校舎の建設です。現在は中学校で六クラス編成、高等学校で八クラス

編成での運営をしておりますが、将来的には中学段階での入学定員を増やすことにより一貫教育を強化していくとします。現在、この方向性に合う教室棟を建てるべく、三菱地所設計の協力を得て最終的な検討を行っております。

第四は、小学校の二十八人学級による教育(各学年四クラス編成をより行いやすい環境を整備するという観点から検討した、小学校校舎の建設です。これは、情報図書館と同じ坂茂氏に建築設計を依頼し、現在建設プランの最終的な検討段階に入っております。

第五は、学園正門付近の情報図書館周りの整備および中高外周の緑化推進を主とした学園の環境整備の推進です。中高外周の整備については、これまで実質的な整備に留めておりましたが、武蔵野市からの地域環境の緑化への協力要請に応え、中高外周の緑化を年次計画に従って進めることといたしました。今後の環境整備の課題は、学園正門や運動施設の整備、および唯一の学外施設となった箱根寮の自然環境の整備などが考えられますが、これらについても学園の財政状況を見ながら必要度の高いものから順次計画を立てていく必要があると認識しております。

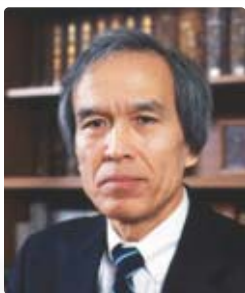
第六は、地球温暖化防止にも貢献する学園の環境に対する取り組み方を決めることです。これについては、この四月から委員会を設置し、岸理事長からの学園環境問題に対する諮問に答えるとともに、自律的に環境問題に対する考え方を示していきたいと考えております。

以上、学園が行うべき事業は山積しており、それを実施していくには、財政基盤をさらに確固としたものにしておかねばなりません。施設建設はあくまで教育を行う環境の整備であり、重要なことは成蹊学園がいかに良い教育を実施することができる教育機関でありうるかということです。また、大学においては、世の中に内容が問える研究の実施母体となることも併せて要求されております。これらの要求に応えられる質の良い教育機関として、成蹊学園が高いレベルを保てるよう、教職員が一体となって努力していく体制を作るためにエネルギーを注ぎたいと思っております。

最後に、皆様にお願いがございます。成蹊学園は現在二〇一二年に向けて一〇〇周年記念募金事業を展開中ですが、目標とする募金額確保にはまだ遠い状況にあります。この二月末からこれまでの銀行振り込みによる募金方法に加え、学園ホームページ上からアクセスしてクレジットカード決済を行うことができる募金システムが稼動しました。学園の発展の礎を築くための一助として、是非とも皆様のさらなるご協力を賜りたいと存じます。

私は、岸理事長の下、成蹊学園の発展のために最大限の努力をする所存でおります。また、これまで皆様の心暖かいサポートを力として新たな事業展開が必要となる項目につきましても、慎重な検討を加えていくつもりでおります。今後も倍旧のご支援を賜りますことを皆様にお願いをし、就任の挨拶とさせていただきます。

## 新年度を迎えて



学長 栗田 恵輔

### 一.はじめに

櫻の新緑、桜の花、芝生の緑で豊かに彩られたキャンパスに、今年も多くの新入生を迎えることができました。難しい試験を突破して入学した学生の期待に応えられるよう、教職員が力を合わせて努力していく所存です。

### 二.学生の力を引き上げるためのキャンパス

成蹊は大変恵まれた環境にあります。勉強、課外活動ともに十分にできるように多くの優れた教職員を擁し、施設・設備も整えています。知的刺激に満ちたこのキャンパスで、成蹊の学生としての時間を有効に使い、大きく飛躍することを願っています。

本学は四学部、六研究科(大学院)からなる総合大学であり、約八千人におよぶすべての学生がこのキャンパスで学んでいます。異なった専攻・学年の学生が日常的

に交流できる環境は、視野を広げるためには大変適したものです。

さらに、都心にある大学であることも重要です。社会との接点が多彩で開放的であり、多くの経験を通して社会性を身につけるうえでも役に立つはずです。また、地域との結びつきも重視しており、近隣の大学、武蔵野市との密接な連携により、学生にとって魅力あるプログラムを提供しています。

### 三.いかなる変化にも対応できる力

国際化、情報化が進むことにより社会環境は激しい勢いで変化しており、近い将来さえも予想できない状態です。また、知識基盤型の社会に移行しつつあると言われるながら、その具体性と方向性は不透明です。したがって、いかなる変化にも対応できる力を在学中につけることが教育の課題です。特に、基礎的な学力、深い教養、語学力、コミュニケーション能力などが強く求められていますので、大学としてもこれに対応するためのカリキュラム改善を全学的に進めています。

### 四.キャリア教育による人間力の向上

現在は、個々人と社会との関係は実感しにくいのが実情です。その結果として自分の将来像をイメージすることが難しくなっており、進路・職業選択の際に困難を感じる学生が増えています。これに対処するため、従来の「就職部」を今年度から「キャリア支援センター」に改組しました。この

新しいセンターでは、これまで力を入れてきた就職指導のほかに、キャリア教育、進路支援を全学的に推進します。

キャリア教育の充実には社会的な要請でもあります。その内容に関しては議論があるところで、大学によつては混乱もみられます。この点で進んでいるとされるアメリカの大学では、「大学におけるすべての教育はキャリア教育である」とさえ言われています。本学では少人数ゼミなどによつて、学生のキャリア意識を高めてきた実績があります。

本学ではキャリア教育を就職対策講座とは位置づけておりません。仕事や職業を通して社会とどのように関わるかという意識を育て、人間として成長することを促す教育であると考えています。つまり、社会の中で積極的に生きていくための力を高める教育であり、成蹊の建学の理念である「人格の陶冶」にも通じるものです。幸い、本学にはキャリア教育に造詣の深い教員がおりますので、先駆的な教育体系を確立しつつあります。

本学の就職状況はきわめて良好であり、経済誌、週刊誌などで常にトップクラスの大学として取り上げられているのはご存じのとおりです。これは本学の教育が社会的に評価されている結果ですが、キャリア教育を体系的に実施することにより、学生の力をさらに高めることができます。

### 五.学生との対話

学長に就任以来、重点的に取り組んでき

た課題の一つに学生支援の充実があります。本学の支援体制は比較的良好であると自負しておりますが、すべての点で十分というわけではなく、学生からの苦情もあります。よりよい大学にするためには、学生の意見を生かし、積極的な参加と協力を得ることが不可欠です。

そこで、昨年度後期から意見箱を設置し、名前を募集した結果、「学長直行便」と決まりました。出された意見、提案には学長として責任をもって回答します。すでにいくつもの建設的な意見が寄せられ、改善に結びついています。

さらに、今年度からは「学長オフィスアワー」を設けました。直接学生に会い、意見を聞いたり、色々なことをざっくばらんに話したりできることを楽しみにしています。

### 六.おわりに

大学の役割として「教育・研究・社会貢献」があげられます。本学ではこの三つの要素を密接に関連づけることによつてさらに高い機能が発揮できると考え、変革を続けています。最近、経済学部二学科の一学科への統合、法科大学院の開設、工学部の理工学部への改組などを行いました。現在、高度な機能をもつ情報図書館の建設が進んでおり、大学の新しいシンボルとして今秋に開館します。卒業生の方も是非ご利用ください。

今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



# 新年度を迎えて



中学・高等学校長  
谷 正紀

今年も桜の春、新入生を迎える季節となりました。入学された生徒の皆さんは厳しい選抜にもかかわらず難関を突破され、今後の学校生活での活躍を大いに期待しております。

中学校、高等学校の就学人口が減る中、成蹊中学校はほぼ前年並みの応募者、高等学校では昨年に比べ応募者が増加しております。これらは学校説明会など受験生および保護者の方々への広報活動により、成蹊教育への社会的なご理解が得られているものと感じておりますが、何よりも同窓生ならびに在校生保護者の皆様のご支援の賜と感謝しております。

成蹊高校生の大学進学については、今年度の成蹊大学への推薦入学は百二十九名で、前年に比べさらに二十五%増大しております。この人数は卒業生の三十九%にあたり、この三年で十四ポイント増加しました。進路指導の充実、大学教員による模擬

授業の実施、大学講義の履修あるいは聴講制度など高校と大学との連携の活発化により、成蹊大学への理解、認識が生徒に浸透してきているものと考えています。外部大学についても生徒の多様な個性を活かし、国公立大学、難関私立大学、さらには成蹊が伝統的に強い医歯薬系大学など、さまざまな分野へ進学しております。

さて今、世界は変革期にあると言われていています。日本もかつての欧米に追いつき追い越せの時代から、一九八〇年代半ば以降大きな時代の転換期にあります。この時期は第二次大戦後というより、自らすべてを変えてしまった明治維新に喩えられます。変革期では当然のことながら従来の社会の枠組み、価値観では解決のできない諸問題に直面することになります。時代の閉塞感とはこのことで、個人にとつては未来への展望が明確に描けないといった風潮があります。追いつき追い越せの時代ではこういったことに悩みを持たなくても突き進んで来られたと言えます。しかし、問題、変革はチャンスでもあります。新しい時代、社会を築くのは人の叡智とイノベーション（革新）です。社会でもリーダーの世代交代が進み、若者に改革を先導して欲しいとの声も大きくなっています。そこに「人」が基本であり、「人づくり」としての教育が今重要視されている背景があります。今年の成人式でも、日本の将来で「どこを変えたいか」について新成人の意識調査をした結果、教育を取り上げた人が半数以上いたという事実もあります。

こういった中で、二〇〇三年から本格化した成蹊中学・高等学校の将来構想も、建学の理念を未来に活かした教育のビジョンの設定に続き、一貫教育のさらなる強化を目指し、教育の枠組みの改革、教育の中身の充実、ならびにこれらを実現する施設環境の再開発計画に取り組んできており、骨子は昨年末の成蹊学園将来構想検討委員会への報告書にまとめられております。その中で大きなステップが、二〇〇七年度に計画している教育の枠組みの改革とそのための施設の再開発であり、去る一月に学園の承認を得ました。今年は一年後の新しい枠組みの実現に向けての具体化準備と対外的な活動の正念場となります。

教育の枠組みの改革は中学校の少人数クラス化とクラス数、国際学級の見直し、中学・高校の定員の見直しなどです。国際学級の見直しは従来の適応教育を考慮しながらも海外で身につけた語学力や広い視野をさらに伸ばすことをねらいとし、一年間の国際学級を経て、二年次以降にはアドバンスした英語プログラムなど成蹊の国際教育の魅力アピールできる施策を検討しております。

施設の再開発はまず中学校新校舎の建築で、この三月末の中学教員室の移設、教員室の取り壊しに続き、七月には着工の予定です。その約一年後には高校校舎の取り壊し、新校舎の着工となり、二〇〇八年の冬には竣工の予定です。工事中は現校舎を利用し続けることで仮設校舎を使わなくても授業ができるように配慮し、生徒の安全

全で円滑な学校生活の確保に十分留意して進める所存です。

教育の中身については、中等教育が初等教育から高等教育への橋渡しという役割を担っていることから、生徒個人が多様な個性を活かして志望する進路を目指すことができる力をつける教育や進路指導ということになります。生徒が基本的能力を高め、志望する進路に挑戦できる力をつけるため、導入、充実、発展（進路期）の各ステップに応じて学習姿勢・意欲の向上と学力の向上に重点を置いた各教科の六年間の一貫したカリキュラムを構築し、これを基本として諸行事についても各ステップのねらいに沿ったプログラムとすることにあります。また近年話題となっている学力低下問題は、単に教育制度の問題のみならず学習態度・意欲の不十分さ、さらにその背景として将来の進路への自覚不足、いわゆる「決心の先送り」があると考えられ、知育的な施策のみならず、学習姿勢、態度や意欲などに現われている「社会性」「主体性」さらには自分の将来を考える力をつける施策が重要であることを示しています。そこにキャリア意識を醸成する教育、早い段階から成長に応じて自らの将来像を描かせ、そこへ到るための道筋を考えさせる「六年間の進路指導」が重要となります。

私ども教職員は「伝統とともに飛躍しよう」の意気込みで取り組んでまいりますので、卒業生の皆様、在学生保護者の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 「少人数教育」二年目の課題



小学校長  
金納善明

このたび、岡崎忠彦前校長の後任として小学校長に就任いたしました。はなはだ微力ではありますが、この大任をお受けしましたうえは、最善を尽くして学校の発展に努力いたす所存でございます。なにとぞ、ご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、成蹊小学校は、昨年度より一年生から三年生までが一学級二十八人の少人数教育体制に移行しました。今年はその二年目に当たります。この四月に新しい一年生を迎えて、四年生までが四学級編成となり、「北組」を持つ学年は、全校の三分の二となりました。

これまでの三十八人学級でなしえた実践は、当然のことながら、二十八人学級でも継承していく必要があります。そしてもう一つ、二十八人学級だ

からこそなしうる実践を着実に積み上げていくことが、今年の課題といえます。

新三年生と新四年生の保護者の方々は、三十八人学級から二十八人学級への移行期を体験されました。ですから、その変化についてはご承知のことだと思います。

しかし、新一年生と新二年生のご家庭では、入学と同時に学級二十八人の「少人数教育体制」を体験されたのですから、比較するものがありません。取えて比較するものがあるとすれば、それは、入学前の様々な情報から生まれた各家庭での「少人数教育イメージ」であると思われます。

私ども小学校の「二十八人学級だからこそなしうる実践」は、それぞれのご家庭で入学前に持たれた少人数教育イメージを超えるものでなければなりません。

小学校の教育目標である子どもたちの学習と生活の「自立」、子ども同士の、そして教師と子どもとの心の通い合いと「連帯」、この中から生まれる明日の自分の「創造」：新入生のご家庭の百十二通りのイメージは、教育目標に対する期待でもあります。これらに応

える実践は、一人の力ではなしえない大きな、そして重要な課題といえます。新年度を迎えて、私ども小学校は、一人ひとりの教員の力を結集してこの課題に取り組んでいきたいと心を新たにしております。

今年度はまた、小学校施設再開発構想がいよいよ具体化する年でもあります。少人数教育体制に見合う新校舎の建築は、同時に新しい時代の教育の方法と内容に対応するものでなければなりません。

安定した社会の知的財産を受けとめていくというかつての教育とは違い、現代は社会の一員としての責任を子どもたちにも求める時代になってきました。

環境教育も、国際理解教育も、情報教育も、そして消費者教育もそうです。これらは、「激動するこれからの社会をどのように生きていくのか」という命題を持った教育なのです。新校舎の建築は、こうした命題に対しても明快な「解」を持つものでありたいと思います。

前段でも述べましたように、私ども小学校は、学園の新・成蹊創造プランにある「個性を持った自立的な人間の創造」に気脈を通じる小学校独自の子ども像「自立・連帯・創造」を掲げています。これらは、これからの社会変化の中にあっても決して変わるこ

い教育目標として、大切にしていきたいものです。そして新校舎の「解」はここにあると考えます。

新校舎建築に伴い、子どもたちが現在の本館や理科館で学ぶのは今年度限りとなり、多くの卒業生の心ふるさとが新しく生まれ変わることになります。これからの時代を見据えた新しい校舎が、私ども小学校の教育目標である「自立・連帯・創造」を具現化する日を楽しみにして再開発構想を詰めているところです。

ところで、こうした小学校教育体制の転換期がくると、いつもある言葉を思い出します。それは、元小学校長の野村純三氏が、成蹊小学校の教育を見事に括られた「伝統の継承と超克」という言葉です。

この八文字の中に、中村春二先生に始まる成蹊小学校の九十余年の伝統を継承するだけでなく、新しい時代に先駆けての成蹊教育を創り出す全ての教職員の叡智の凝集が必要なのだというメッセージを強く感じるので

私ども小学校が「伝統の継承と超克」という努力を継続したとき、新しい校舎は、これまでの卒業生にとっても「新しい心のふるさと」として歓迎されるに違いありません。

多くの皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



# 桃李の人々

第9回

今年2月、小学館から、学習まんが『大正自由教育の旗手 中村春二』が刊行されました。同社の常務取締役を務められているのは、春二先生の孫でもある中村滋さんです。大学時代は、ワンダーフォーゲル部の活動と読書に熱中されたという中村さんに当時の思い出と、その後の編集者としての仕事ぶりを語っていただきました。



中村 滋  
Shigeru Nakamura  
小学館 常務取締役

今、最も必要なのは  
自立的に物事を考えられる  
想像力（イマジネーション）と  
創造力（クリエイティビティ）である

## 学者肌、芸術家タイプが多い 中村春二家の人々

——成蹊学園の創設者である中村春二家の方々は、学者肌、芸術家タイプが多い印象があります。

中村 そういえばそうですね。私の父である三男の崇は王子製紙に勤務していましたが、長男の秋一は読売新聞の記者、次男の浩は牧野富太郎博士の弟子で「糞尿博士」の異名をとった生物学者でしたし、五男の彰は、東宝、新東宝で俳優をしていました。一番下の文雄はNHKです。

——それは、何か家庭環境の影響があったのでしょうか。

中村 次男の浩は、幼い頃母親に高価な顕微鏡を買ってもらったこともあって、生物学の道へ進んだという話を聞いたことがあります。とはいえ、春二に何らかの意図があったわけではないようです。私は直接会ったことはないのですが、父からは春二はとても自由を大切にす

人だったと聞かされています。そうした家庭に育ったからでしょうか、私自身、父から進路などについて指示めたことを言われた記憶はありません。自分で考えて行動しなさいという方針だったように思います。

——成蹊学園に入学されたのはいつからですか。

中村 私が生まれたのは、成蹊学園のすぐ裏手ですが、父の仕事の関係で、幼少時代は北海道、小学校から高校までは名古屋で過ごしました。成蹊学園に入学したのは、大学からです。

## 春二の孫の中で最初の 成蹊大学入学者

——成蹊大学を選ばれたのは、どのような理由だったのですか。

中村 実は、それまで春二の孫たちは、小・中・高校は成蹊学園で学んだ者はいるものの、成蹊大学に進学したケースはありませんでした。私の兄も慶應義塾大学に入学して

いました。そのため、両親から「一人ぐらいいは中村家の中から成蹊大学に入学してもいいのではないか」と勧められたのです（笑）。その後、弟も成蹊大学に入学しました。

——入学してみても印象はいかがでしたか。

中村 私が入学したのは政治経済学部です。ちょうど工学部が新設されたばかりの年で、まだ文系学部は政治経済学部だけでした。今とは比べようもないくらい少人数の大学でした。講堂も名古屋の高校のものより小さかったほどです。

——そんな中で魅力的だったのは、環境の素晴らしさでした。もちろん、地方に行けば、自然環境に恵まれた大学はあるでしょう。けれども、都心に近いにも関わらず、これだけ自然に恵まれているキャンパスは、なかなかありません。思い出すのは、大学一年生の夏、本館での授業中、ミンミンゼミの鳴き声が降りそいでいたことです。当時は、箱根より西にはクマゼミしか生息していませ

——学生時代の活動で、最も力を注いだことは何ですか。

中村 授業にはまああつうに出席していましたが、学間に打ち込むといったタイプの学生ではありませんでした。最も熱心に取り組んだのはワンダーフォーゲル部の活動です。

——大学入学以前から山歩きが趣味だったのですか。

中村 いえ、高校までは軽音楽を趣味にしていました。成蹊大学の軽音楽部は有名だったので、当初はそちらに入部するつもりでした。それが方向転換した理由は単純です。入学して、ワンダーフォーゲルという名前を聞いた時、何となくその言葉の響きにかっこよさを感じて、入部



## 中村 滋（なかむら・しげる）

1944年東京都生まれ。1966年、成蹊大学政治経済学部卒業後、同年株式会社小学館入社。『ボーイズライフ』『ビッグコミック』『少年サンデー』を経て、『BE-PAL』『DIME』『サライ』の創刊に携わり、編集長を歴任。1993年5月 取締役就任。1999年5月 常務取締役就任。現在、児童・学習編集局、コミュニケーション編集局、マーケティング局ネットメディア担当常務。

してしまつたのです。ところが、どんな活動をするクラブなのかよく分かつていなかったで、入ってみて驚きました。ワンダーフォーゲル部としてはめずらしい体育会系のクラブだったからです。ザックに二十キロの石を入れて奥多摩まで歩いたり、まるで山岳部並みのハードなトレーニングが課されました。

——印象に残っている山はありますか。

中村 大学四年間で、富士山と南アルプスの一部を除いて、いわゆる有名な山にはずいぶん登りました。

——一番印象に残っているのは、一年生の春に訪れた上高地です。約一週間、テント生活をおくりながら西穂高岳などに登りました。上の方

にはまだかなり雪が残っていて、絶景でした。ちょうど小梨平のケシウヤナギが芽吹く時期で、日本にはこんな素敵なところがあるのだと感動しました。

——他大学の学生との交流もあったのですか。

中村 私は、ワンダーフォーゲル大学連盟の渉外係を担当していました。その関係もあって、学習院大学、成城大学、武蔵大学、東京女子大学、女子美術大学などの学生とも一緒に活動しました。

——もう一つ、ワンダーフォーゲル部の活動で思い出すが、二年生の時に、部の機関誌『石楠花（しゃくなげ）』を制作したことです。休刊になっていたこの機関誌を復刊させ、私も編



## 政治の見方、考え方を 鍛えられたゼミ

——ゼミの思い出もお聞かせ下さい。

中村 一昨年亡くなられた国際政治学者の阿部斉先生のゼミに所属していました。まだ着任されたばかりのバイタリティーのある先生で、私たちが最初のゼミ生でした。学生は四人だけなので、欠席できないのがネックでしたが（笑）。

——どんなテーマの研究が行われていたのですか。

中村 先生の専門の国際政治学を教わるというよりも、社会全般について幅広い素養を修得することができるゼミでした。大衆社会を分析したデヴィッド・リースマンのベストセラー『孤独な群衆』の原書を読みな

がら、日本人の結婚観、群集心理といった、政治学とは直接関係しないようなテーマについて、熱くディスカッションしたことを覚えています。

——もちろん、政治なるものの見方、考え方も身につきました。ちょうど公明党が発足して伸長し始めた頃で、先生から「公明党の勢いを阻止するために、なぜ自民党と社会党は手を結ばなかったのか」という問いかけをされたことが印象に残っています。つまり、政治とは、目的のためには時には主義を変えてでも手を結んでいい。政治とはそういうものなのだというのを、先生は教えたかったのだと思います。単に知識を教授するのではなく、ものの考え方を鍛えられたことは、ありがたいことでした。それこそがゼミの醍醐味でもあるわけですから……。

この政治の本質に対する視点は、私にとって、現在でもとても参考になっています。

## 古本屋に入り浸り 読書に熱中した大学時代

——出版社を志望されたのは、いつ頃からですか。

中村 出版社の社員は、文学少年・少女だったというタイプが多いのですが、私は高校まではあまり読書好きではありませんでした。本に熱中したのは大学入学後です。吉祥寺駅周辺に数多くあった古本屋に入り浸り、サマーセット・モームやヘルマン・ヘッセなどはほとんどの作品を読破しました。人は必ず青春



# 2006年度事業計画・予算の概要

2006年度予算は、理事会、評議員会の議を経て、第1表及び第2表の通り決定いたしました。

少子化の時代を迎え、大学間競争は益々激しくなり、私学の経営環境は一層厳しさを増しています。収入の面では、受験者数の減少による手数料の減少、100周年記念事業である情報図書館、中学教室棟などの建築費用の支払いに伴う基本金組入額の増加があり、減少しています。支出の面では、100周年記念事業の推進を中心に教育研究の充実、施設設備の更新・改修等により増加しております。このような状況のもと、貴重な財源を有効に使用することを念頭におき、管理諸経費の見直し等コスト縮減と重点的な予算配分に努めました。

第1表の消費収支予算書は、消費収入と消費支出の均衡の状態でその内容を明らかにすることにより、学園の経営状況を把握するものです。

消費収入の部では、納付金が前年度より5億53百万円減少する見込みですが、これは新入生の納付金について、前年度は実入学者数により補正予算を編成したことによるためです。その他、手数料、寄付金、補助金などの実質的収入である帰属収入の合計は142億41百万円となり、昨年度より10億19百万円減少しています。

基本金組入額は学校運営のために基本的に必要とする建物、機器備品、図書等の取得額(第1号)、将来の校舎取得等を目的とした施設設備整備資金の積上げ額(第2号)、成蹊学園創立100周年記念事業募金から積上げる奨学基金(第3号)で、その合計額は41億45百万円となります。帰属収入から、この基本金組入額を控除した額が消費に充てられる消費収入で、その額は100億96百万円となります。一方、消費支出の部では、人件費、教育研究・管理経費などの消費支出合計は139億67百万円となります。

この結果、消費収入合計と消費支出合計の差額38億71百万円が消費支出超過額となる見込みです。これは、100周年記念事業の進展に伴い、中学教室棟の建築、大学図書館の大規模な改修が始まることと、2007年度以降に計画されている校舎等の建築費用を第2号基本金として積上げるため、基本金組入額の総額が増加したことが主要因になります。

第2表の資金収支予算書は、教育研究など学園全体の諸活動に伴う資金の動きがすべて網羅されており、予算総額は295億18百万円です。収入の部のその他の収入は、退職金の支払資金及び施設の建設や改修の支払資金等に充当するため、過年度に積上げていた資金の取崩し額です。一方、支出の部の資産運用支出には、計画に基づく施設設備整備資金引当特定資産等への資金の積上げが含まれます。

| 第1表【消費収支予算書】                         |           |           |          |  |
|--------------------------------------|-----------|-----------|----------|--|
| 2006(平成18)年4月1日から、2007(平成19)年3月31日まで |           |           |          |  |
| (単位:百万円)                             |           |           |          |  |
| 消費収入の部                               |           |           |          |  |
| 科 目                                  | 予算額       | 前年度予算額    | 増 減      |  |
| 学生生徒等納付金                             | 10,567    | 11,120    | △ 553    |  |
| 手数料                                  | 596       | 721       | △ 125    |  |
| 寄付金                                  | 474       | 396       | 78       |  |
| 補助金                                  | 1,519     | 1,388     | 131      |  |
| 資産運用収入                               | 352       | 342       | 10       |  |
| 資産売却差額                               | 0         | 592       | △ 592    |  |
| 事業収入                                 | 251       | 256       | △ 5      |  |
| 雑収入                                  | 482       | 445       | 37       |  |
| 帰属収入合計                               | 14,241    | 15,260    | △ 1,019  |  |
| 基本金組入額合計                             | △ 4,145   | △ 3,685   | △ 460    |  |
| 消費収入の部合計                             | 10,096    | 11,575    | △ 1,479  |  |
| 消費支出の部                               |           |           |          |  |
| 科 目                                  | 予算額       | 前年度予算額    | 増 減      |  |
| 人件費                                  | 8,071     | 7,989     | 82       |  |
| (教職員等人件費)                            | ( 7,684 ) | ( 7,619 ) | ( 65 )   |  |
| (退職給与引当金繰入額)                         | ( 387 )   | ( 370 )   | ( 17 )   |  |
| 教育研究経費                               | 4,606     | 4,581     | 25       |  |
| (うち減価償却額)                            | ( 1,689 ) | ( 1,769 ) | ( △ 80 ) |  |
| 管理経費                                 | 935       | 856       | 79       |  |
| (うち減価償却額)                            | ( 174 )   | ( 189 )   | ( △ 15 ) |  |
| 借入金等利息                               | 56        | 65        | △ 9      |  |
| 資産処分差額                               | 55        | 2         | 53       |  |
| 徴収不能引当金繰入額                           | 14        | 16        | △ 2      |  |
| (予備費)                                | 230       | 230       | 0        |  |
| 消費支出の部合計                             | 13,967    | 13,739    | 228      |  |
| 当年度消費収支差額                            | △ 3,871   | △ 2,164   |          |  |
| 前年度繰越消費収支差額                          | △ 2,290   | △ 126     |          |  |
| 次年度繰越消費収支差額                          | △ 6,161   | △ 2,290   |          |  |

2006年度における学園創立100周年記念事業など主な事業計画は次の通りです。

●情報図書館は、6月に竣工し、9月に開館します。2006年度に支払を予定している建築工事費、及び書架、情報システム等の初度設備品購入費用を予算計上しています。

●現行の大学図書館本館・別館を大規模に改修し、大学1号館・大学2号館として2007年4月から新たな形で使用します。1号館は、キャリア支援センター、国際教育センター等が置かれる新たな施設に、2号館はゼミ教室棟に生まれ変わります。

●中学・高等学校施設の再開発

今年7月から2007年8月の完成を目指し、中学教室棟の建築工事が始まります。建築工事費、設計監理料等を予算計上しています。

●小学校施設の再開発

小学校の教室棟の着工は、2007年度を予定していますが、2006年度は具体的な基本設計、実施設計の作業を進めます。

●小学校28人4学級制

2005年度からスタートした28人4学級制は、学年進行により1年生から4年生が対象となります。専任教員を増員し、細部にわたる児童指導を展開します。

●国際教育センター

学園縦断型組織として2004年度に開設された国際教育センターでは、「多読教育」プログラムの推進、中学・高等学校の短期留学制度の拡充、留学に関する新しい奨学金制度の導入等新たな事業を展開します。

●法科大学院

専用図書の充実を図るために学生用図書費1900万円を予定しています。また、社会人学生の利便性を高めるため、丸の内にサテライト・オフィスを開設します。専用回線により本校で行われる講義を同時中継し、サテライト・オフィスでの双方向授業を可能とします。

●学園環境の整備

大学5・6号館、情報図書館周辺、及び学園本館前の整備をします。また、中学高校南側及び大学西部室周りの道路沿いのコンクリート塀を樹木や格子状フェンスに取り替えます。

その他、厳しい財政事情ではありますが、充実した学園生活になるよう、できる限り教育関係予算の確保に努めています。

| 第2表【資金収支予算書】                         |           |           |         |  |
|--------------------------------------|-----------|-----------|---------|--|
| 2006(平成18)年4月1日から、2007(平成19)年3月31日まで |           |           |         |  |
| (単位:百万円)                             |           |           |         |  |
| 収入の部                                 |           |           |         |  |
| 科 目                                  | 予算額       | 前年度予算額    | 増 減     |  |
| 学生生徒等納付金収入                           | 10,567    | 11,120    | △ 553   |  |
| 手数料収入                                | 596       | 721       | △ 125   |  |
| 寄付金収入                                | 474       | 396       | 78      |  |
| 補助金収入                                | 1,519     | 1,388     | 131     |  |
| 資産運用収入                               | 352       | 342       | 10      |  |
| 資産売却収入                               | 799       | 1,087     | △ 288   |  |
| 事業収入                                 | 251       | 256       | △ 5     |  |
| 雑収入                                  | 482       | 445       | 37      |  |
| 前受金収入                                | 2,026     | 2,014     | 12      |  |
| その他の収入                               | 7,972     | 6,421     | 1,551   |  |
| 資金収入調整勘定                             | △ 2,473   | △ 3,131   | 658     |  |
| 前年度繰越支払資金                            | 6,953     | 8,086     | △ 1,133 |  |
| 収入の部合計                               | 29,518    | 29,145    | 373     |  |
| 支出の部                                 |           |           |         |  |
| 科 目                                  | 予算額       | 前年度予算額    | 増 減     |  |
| 人件費支出                                | 8,445     | 8,320     | 125     |  |
| (教職員等人件費支出)                          | ( 7,684 ) | ( 7,619 ) | ( 65 )  |  |
| (退職金支出)                              | ( 761 )   | ( 701 )   | ( 60 )  |  |
| 教育研究経費支出                             | 2,917     | 2,812     | 105     |  |
| 管理経費支出                               | 761       | 667       | 94      |  |
| 借入金等利息支出                             | 56        | 65        | △ 9     |  |
| 借入金等返済支出                             | 172       | 172       | 0       |  |
| 施設関係支出                               | 4,398     | 3,226     | 1,172   |  |
| 設備関係支出                               | 679       | 336       | 343     |  |
| 資産運用支出                               | 5,101     | 6,141     | △ 1,040 |  |
| その他の支出                               | 531       | 659       | △ 128   |  |
| (予備費)                                | 350       | 350       | 0       |  |
| 資金支出調整勘定                             | △ 477     | △ 556     | 79      |  |
| 次年度繰越支払資金                            | 6,585     | 6,953     | △ 368   |  |
| 支出の部合計                               | 29,518    | 29,145    | 373     |  |

## 桃李の人々 第9回

中村 滋／小学館 常務取締役

時代に人生に悩みます。私にとつては人生を深く考える時期が、大学時代だったということなのでしょう。また、阿部先生からの勧めもあつて、当時ブームになっていたサルトルなどの実存主義の本もよく読みました。それが高じて、学園祭では、友人と一緒に「実存主義とは何か」という展示も行いました。思い出すと赤面の至りですが、訳の分からないパネルやオブジェを作り、訪れた学生の困惑した顔を見ては楽しんでいました。アンダーグラウンド、カウンターカルチャーの潮流の中で、学生がそんなことをやるのが許されていた時代でもありました。

——そうした体験を通して、編集者を目指そうという意識が生まれてきたわけですね。

中村 最大のきっかけは、二年生のワンダーフォーゲル部の春合宿で、九州に行った時のことです。合宿が終わった後も、お寺に泊まつたり、テントを張つたりと、旅を続けていました。その時、たまたま立ち寄つた長崎の書店で小学館の雑誌『ボーイズライフ』を目にしました。後の『平凡パンチ』『ブレイボーイ』などに続く若者向け雑誌の草分け的な雑誌で、グラビアはアイドルの水着写真であり、激流のボート下り、自動車レース、アイデア工作などの特集、翻訳サスペンス小説も連載されていました。すべて私が興味を持っているものばかりです。これを仕事としてやれるのは素晴らしいことだと思います。

それから、出版社でどんな試験が課されるのか、情報を収集しました。マスコミは、一般常識のウエートが高いことを知り、新聞をじっくり読むようにしたほか、古本屋で雑学書もたくさん購入して読みました。その甲斐あつてか運よく、小学館に入社することができました。

——小学館では、どのような部署に配属されたのですか。

中村 約半年間は新人研修期間であり『女性セブン』などに仮配属されました。でも、先ほど話したように、私の希望は『ボーイズライフ』の仕事です。そこで、まだ少なかった自動車免許証を取得しているし、ワンダーフォーゲル部出身だから川下りの経験もある。オートバイにもくわしい。私ほど『ボーイズライフ』の編集者に向いている者はいないと、社内ではアピールし続けました(笑)。希望通り、九月からは『ボーイズライフ』に配属されたのですが、残念ながらこの雑誌は一年半ほどで休刊になってしまいました。

その後、『ビッグコミック』の創刊に参加しました。私は、ワンダーフォーゲル部の合宿などで地方を回っていた時に、貸本屋で古くなった漫画本を買ひ集めていました。白土三平氏の『忍者武芸帳』を全巻揃いで持っており、後に小学館でこの本の豪

——そうした仕事をされてきた中で、成蹊大学で学んだことが役立っていると感じられることはありますか。

中村 『少年サンデー』の副編集長時代に、小学館で、漫画雑誌以外の新しいタイプの雑誌を企画しようというプロジェクトが発足し、私もメンバーの一人になりました。そして、一九八一年に誕生したのが、アウトドア雑誌『BE P A L』で、私が編集長になりました。それから、一九八六年のマーケティングエンターテインメント雑誌『D I M E』、一九八九年の日本初の大人の生活誌『サライ』の創刊にも携わり、創刊編集長を務めました。新しい形態の雑誌が続々と誕生する流れの激しい時代に、編集長として過ごすことができたのは、とても恵まれていたと思っています。

その後、様々な雑誌の創刊に携わっていらっしゃいますね。

中村 『少年サンデー』の副編集長時代に、小学館で、漫画雑誌以外の新しいタイプの雑誌を企画しようというプロジェクトが発足し、私もメンバーの一人になりました。そして、一九八一年に誕生したのが、アウトドア雑誌『BE P A L』で、私が編集長になりました。それから、一九八六年のマーケティングエンターテインメント雑誌『D I M E』、一九八九年の日本初の大人の生活誌『サライ』の創刊にも携わり、創刊編集長を務めました。新しい形態の雑誌が続々と誕生する流れの激しい時代に、編集長として過ごすことができたのは、とても恵まれていたと思っています。

それから『少年サンデー』に移り、約四年間、副編集長を務めました。『がんばれ元氣』『赤いベガサス』『タッチ』などの作品が登場した同誌の黄金期でしたね。

中村 『少年サンデー』の副編集長時代に、小学館で、漫画雑誌以外の新しいタイプの雑誌を企画しようというプロジェクトが発足し、私もメンバーの一人になりました。そして、一九八一年に誕生したのが、アウトドア雑誌『BE P A L』で、私が編集長になりました。それから、一九八六年のマーケティングエンターテインメント雑誌『D I M E』、一九八九年の日本初の大人の生活誌『サライ』の創刊にも携わり、創刊編集長を務めました。新しい形態の雑誌が続々と誕生する流れの激しい時代に、編集長として過ごすことができたのは、とても恵まれていたと思っています。

中村 成蹊学園の校門脇に「個性を持った自立的な人間の創造」と書かれた教育理念の碑があります。戦後日本の教育は記憶力と応用力を重視してきました。けれども、今重要なのは、自立的に物事を考えられる想像力(イマジネーション)と創造力(クリエイティビティー)です。とくに編集者にはこの二つの力が不可欠です。情報が氾濫し、読者の要求が高くなっている中でも、もはや先例の焼き直しは通用しません。読者のニーズを把握しつゝ、新しいものを生み出す能力が必要とされるのです。それを大学時代に鍛えられたことが、大きな糧になっています。

——このたび、小学館から学習まんが『大正自由教育の旗手 中村春二』が上梓されました。春二先生の孫として、また編集者として、どのような感想をお持ちでしょうか。

中村 春二の好奇心の強さは魅力的だと思いました。単なる「新し物好き」だったのかもしれないが：(笑)。現代よりもはるかにコンサバ(保守的な状況の中で、新しいことに挑戦しようとする意欲は見習いたいところですよ。また、友人たちとの関係にも感動しました。あの助力がなければ、現在の成蹊学園の姿はないわけですから。その伝統を受け継いで、これからも成蹊学園が素晴らしい友情を育む場であり続けてほしいと願っています。

(インタビュー／広報課 伊藤昌弘)



2005年度 成蹊大学賞・特別奨励賞 受賞者一覧

|         |                          |                                                             |
|---------|--------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 【成蹊大学賞】 |                          |                                                             |
| 学術部門    | 五明由美子<br>(工学研究科前期2年)     | 膜分野での国際的な学会であるICOMに参加し、優秀な成績を収めたことを評価。                      |
| 学術部門    | 吉田雄一郎<br>(経営学研究科前期2年)    | アーク都市塾に参加し、卒塾論文で提案したプランが、表参道ビルズにて採用されることが決まったことを評価。         |
| 芸術部門    | 佐藤由奈(文学部1年)              | ビティナ・ピアノコンベンションにおいて東京地区本戦で1位、全国決勝大会で(35,520名参加)3位となったことを評価。 |
| スポーツ部門  | 体育会<br>アーチェリークラブ         | 関東学生アーチェリー連盟において、1部に昇格したことを評価。                              |
| 文化活動部門  | 水野友資(経済学部3年)<br>文化会英語会所属 | The 7th JPDU Tournament に参加し、個人の部で1位になったことを評価。              |
| 社会活動部門  | 武石君宏(法学部3年)              | 世田谷BBS会において、会長として保護司と非行少年の橋渡し活動に取り組んだことを評価。                 |

|         |                                                                                     |                                                              |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 【特別奨励賞】 |                                                                                     |                                                              |
| 学術部門    | 安田好隆(経済学部3年)<br>情報分析コース在籍<br>浅利 勲(経済学部3年)<br>情報分析コース在籍<br>篠 知幸(経済学部3年)<br>情報分析コース在籍 | 統計グラフコンクールに参加し、東京都統計グラフコンクールと統計グラフ全国コンクールにおいて優秀な成績を取ったことを評価。 |
| 学術部門    | 市川麻里子<br>(工学研究科前期2年)                                                                | 電気学会産業応用部門大会(YPC)に参加し、優秀発表賞を受賞したことを評価。                       |
| スポーツ部門  | 山本哲郎(経済学部3年)<br>文化会競技ダンス部所属                                                         | 東都大学学生競技ダンス選手権大会においてサンパの部で4位となり、全日本選手権へ出場を決めたことを評価。          |
| 社会活動部門  | 板垣 毅(法学部4年)                                                                         | 継続的に地域活動で活躍し、防火思想の普及と人命安全対策推進に努力したことを評価。                     |

父母懇談会一覧表

|      | 対象          | 開催日                        | 前回<br>出席者 |
|------|-------------|----------------------------|-----------|
| 経済学部 | 2年次生<br>保証人 | 6月17日(土)<br>同日開催に<br>なります。 | 138名      |
| 文学部  | 3年次生<br>保証人 |                            | 142名      |
| 法学部  | 2年次生<br>保証人 |                            | 133名      |

※隔年開催のため、2006年度は工学部／理工学部の  
父母懇談会は開催いたしません。

父母懇談会一覧表

第一段なかなかキャンパスを訪れ

第一段 五月二十日(土)

前期公開講座のご案内

日程変更の可能性がありますが、詳細につきましては、ホームページ、電話等でご確認の上、お越しください。なお、事前の申し込みは不要で、どなたでもご参加いただけます。

二〇〇五年度 国家試験合格実績

各種国家試験の合格実績については、次の通りです。

- 司法試験(二名)
- 公認会計士(一名)
- 国家公務員試験Ⅱ種  
在学生 八名  
卒業生 六名

二〇〇五年度 成蹊大学賞

本学では、学術、芸術、スポーツ、文化活動、社会活動の各分野で他の学生の範となる活動を行い、優秀な成果をあげた個人及び団体に日頃の努力を称え、「成蹊大学賞」を授与しています。また、成蹊大学賞には及ばずとも、それぞれの分野で積極的に活動し、その功績が評価された個人及び団体に対しては、特別奨励賞を授与しています。

二〇〇五年度の表彰式は、十



キャリア支援センター開設

「〇〇六年四月に「成蹊大学キャリア支援センター」が開設されました。このセンターは、大学全体として学生のキャリア支援に取り組んでいくために、これまで事務部署であった成蹊大学就職部を改組し、キャリア教育支援のための大学附属機関として設置されたものです。

「キャリア支援」というのは、「それぞれの人間が、職業や仕事を通じて社会とどのように関わっていくべきかという意識を成長させるプロセスを支援すること」を指し、そのための教育がキャリア教育です。したがって小学生や中学生にふさわしいキャリア教育があり、大学には大学にふさわしいキャリア教育があります。近年多くの大学がキャリア教育の必要性を認め、先を争うようにキャリア教育の開発に取り組んでいる状況にあります。

これらの状況を詳細に見回してみると、単に業者が創ったプログラムをそのまま適用していたり、他の大学の完全な模倣を行ったりするケースが多く見られます。しかし個々の大学にはそれぞれ個性があり、学生の気質や雰囲気、志向など(学生文化と総称されることがあります)は大学によって大きく異なっています。成蹊大学キャリア支援センターは、出来合いのプログラム

を使用するのではなく、成蹊大学の歴史や伝統を踏まえた上で、現在の成蹊大学の学生に適合する教育プログラムを手作りで構築していくことを目指しています。

これまでの成蹊大学就職部が行ってきた就職支援活動は、「就職の成蹊」と言われるほど同規模の大学を圧倒的に凌駕する実績を上げてきたと言えます。本格的な就職支援活動は三年次生の秋から開始され、きめ細かい個別相談を軸としてグループガイダンスや学内企業セミナーなどの様々な情報提供を行い、学生の意識の高揚を図っています。今後ともこのような就職支援体制を維持強化していくと同時に、それらをさらに発展させていくために、一・二年次の低学年向け個別相談、インターシップ実習などの学生と社会との関わりを促進していくための教育プログラムの開発、そして学部

2006年3月卒業生の主な就職企業

| 経済・法・文学部<br>男子 | 人数<br>(人) | 経済・法・文学部<br>男子 | 人数<br>(人) |
|----------------|-----------|----------------|-----------|
| 日興コーディアルグループ   | 5         | 凸版印刷           | 1         |
| 千葉銀行           | 4         | 中外製薬           | 1         |
| みずほ銀行          | 4         | 横浜ゴム           | 1         |
| 三菱東京UFJ銀行      | 4         | 日本精工           | 1         |
| 三井住友銀行         | 3         | 日立製作所          | 1         |
| 大和証券グループ本社     | 3         | 富士重工業          | 1         |
| 損害保険ジャパン       | 3         | 本田技研工業         | 1         |
| 東京都民銀行         | 2         | オリンパス          | 1         |
| 八千代銀行          | 2         | 住商機電貿易         | 3         |
| 日本興亜損害保険       | 2         | 東京産業           | 3         |
| 住友信託銀行         | 1         | キャノン販売         | 2         |
| 中央三井信託銀行       | 1         | 国分             | 2         |
| みずほ信託銀行        | 1         | 第一実業           | 2         |
| りそな銀行          | 1         | 日本紙ハルブ商事       | 2         |
| 城南信用金庫         | 1         | 住友商事           | 1         |
| 日本生命保険         | 1         | 丸紅             | 1         |
| 積水ハウス          | 3         | 三菱商事           | 1         |
| 大和ハウス工業        | 3         | 伊勢丹            | 1         |
| 出光興産           | 3         | 京王百貨店          | 1         |
| 旭化成ホームズ        | 2         | 大丸             | 1         |
| 新菱冷熱工業         | 2         | 三越             | 1         |
| ハウス食品          | 2         | 三菱電機ビルテクノサービス  | 8         |
| 大日本印刷          | 2         | コナミ            | 2         |
| 大日精化工業         | 2         | 野村不動産          | 1         |
| 大同特殊鋼          | 2         | 全日空            | 1         |
| フジクラ           | 2         | JR東海           | 1         |
| 東洋製罐           | 2         | 日本通運航空事業部      | 1         |
| マックス           | 2         | 郵船航空サービス       | 1         |
| 大林組            | 1         | NTT東日本         | 1         |
| 清水建設           | 1         | 毎日新聞社          | 1         |
| 大成建設           | 1         | 電通             | 1         |
| 高砂熱学工業         | 1         | 帝国データバンク       | 1         |
| 竹中工務店          | 1         | 警視庁警察官         | 6         |
| 千代田化工建設        | 1         | 埼玉県警察本部        | 3         |
| 森永製菓           | 1         | 国家公務員          | 2         |

| 経済・法・文学部<br>女子 | 人数<br>(人) | 経済・法・文学部<br>女子           | 人数<br>(人) |
|----------------|-----------|--------------------------|-----------|
| みずほ銀行          | 62        | 日興興産                     | 2         |
| 東京海上日動火災保険     | 27        | INAX                     | 2         |
| 東京海上日動あんしん生命保険 | 14        | リンナイ                     | 2         |
| 損害保険ジャパン       | 13        | ウシオ電機                    | 2         |
| 三井住友海上火災保険     | 11        | 明治製菓                     | 1         |
| 日本興亜損害保険       | 10        | 資生堂                      | 1         |
| みずほ信託銀行        | 8         | 武田薬品工業                   | 1         |
| 三井住友銀行         | 8         | キャノン                     | 1         |
| りそな銀行          | 8         | ヨネックス                    | 1         |
| 日本生命保険         | 8         | エム・シー・マシナリー              | 4         |
| 大同生命保険         | 7         | 日本紙ハルブ商事                 | 4         |
| 住友信託銀行         | 5         | 森村商事                     | 4         |
| 三井リース事業        | 4         | 成城石井                     | 4         |
| アメリカンファミリー     | 4         | 高千穂交易                    | 3         |
| 三井生命保険         | 4         | トーハン                     | 3         |
| 千葉銀行           | 3         | 守谷商会                     | 2         |
| 中央三井信託銀行       | 3         | 住友商事                     | 1         |
| 三菱東京UFJ銀行      | 3         | 三井物産                     | 1         |
| ジェーシービー        | 3         | エトワール海渡                  | 1         |
| 野村證券           | 3         | 伊勢丹                      | 1         |
| 日本銀行           | 2         | 高島屋                      | 1         |
| 日本マスタートラスト信託銀行 | 2         | オリックス自動車                 | 3         |
| 三菱UFJ信託銀行      | 2         | 三井住友銀オートリース              | 3         |
| 住商リース          | 2         | 三井不動産販売                  | 2         |
| 大和証券グループ本社     | 2         | 安田不動産                    | 2         |
| 東京都民銀行         | 1         | 日本航空インターナショナル<br>[客室業務部] | 2         |
| 横浜銀行           | 1         | 郵船航空サービス                 | 2         |
| 城南信用金庫         | 1         | 野村総合研究所                  | 2         |
| 農林中央金庫         | 1         | エアーニッポン                  | 1         |
| 大阪シーリング印刷      | 4         | JR東日本                    | 1         |
| 大日本印刷          | 4         | 東北新社                     | 1         |
| 旭化成ホームズ        | 3         | 三菱地所設計                   | 1         |
| 積水ハウス          | 2         | 東京都立学校教員                 | 2         |
| オンワード樫山        | 2         | 東京特別区職員                  | 2         |
| 関東電化工業         | 2         | 東京都職員                    | 2         |

2006年2月28日現在

| 工学部<br>(大学院を含む) | 人数<br>(人) | 工学部<br>(大学院を含む) | 人数<br>(人) |
|-----------------|-----------|-----------------|-----------|
| 大日本印刷           | 5         | 三菱重工業           | 1         |
| 凸版印刷            | 4         | キャノン            | 1         |
| 横河電機            | 4         | セイコーエプソン        | 1         |
| 清水建設            | 3         | 三菱電機            | 1         |
| ニチアス            | 3         | 村田製作所           | 1         |
| 三菱自動車工業         | 3         | アイシン・エイ・ダブルユ    | 1         |
| 市光工業            | 2         | 小糸製作所           | 1         |
| 沖電気工業           | 2         | スズキ             | 1         |
| 東芝              | 2         | 日産自動車           | 1         |
| 日本電気            | 2         | 日野自動車           | 1         |
| 日立製作所           | 2         | マツダ             | 1         |
| 本田技研工業          | 2         | ヤマハ発動機          | 1         |
| 三菱ふそうトラック・バス    | 2         | 三井住友銀行          | 1         |
| ニコン             | 2         | 横浜銀行            | 1         |
| マルハ             | 1         | 東京海上日動火災保険      | 1         |
| 協和エクシオ          | 1         | 伊藤忠テクノサイエンス     | 2         |
| 大気社             | 1         | フォーバル           | 2         |
| 千代田化工建設         | 1         | キャノン販売          | 1         |
| 三菱化学エンジニアリング    | 1         | 森村商事            | 1         |
| エスビー食品          | 1         | 伊勢丹             | 1         |
| メルシャン           | 1         | トヨタテクノサービス      | 4         |
| 森永乳業            | 1         | JR東日本           | 3         |
| 共同印刷(株)         | 1         | 東京電力            | 3         |
| 住友スリーエム         | 1         | 三菱電機ビルテクノサービス   | 3         |
| セメダイン           | 1         | 全日空             | 2         |
| 全業工業            | 1         | KDDI            | 2         |
| 武田薬品工業          | 1         | NTT東日本          | 2         |
| 田辺製薬            | 1         | NTTデータ          | 1         |
| 日本メナード化粧品       | 1         | JR東海情報システム      | 1         |
| ファイザー           | 1         | JR東日本情報システム     | 1         |
| 三菱樹脂            | 1         | 三菱スペース・ソフトウェア   | 1         |
| ミヨシ油脂           | 1         | 日本総合研究所         | 1         |
| 横浜ゴム            | 1         | 船井総合研究所         | 1         |
| TOTO            | 1         | 国家公務員           | 1         |
| 石川島播磨重工業        | 1         | 東京都職員           | 1         |



## 韓国光新高校との交流について

高等学校地歴科教諭 柄木田文明

この一月十七日(火)、韓国の光新高校の田溶海チヨン・ヨン(校長先生、三名の先生、三十七名の生徒が初めて成蹊中学・高等学校に来校され、両校の東京での交流が実現しました。ここに至るまでの経緯を簡単に紹介したいと思います。

ご存じのように、成蹊中学・高等学校はアメリカのセントポールズ校とは一九四九年から、オーストラリアのカウラ校とは一九七〇年から交換留学制度をスタートしました。それ以来、両校とは友好関係を築いて参りました。しかし、これまでアジアの近隣諸国に交流校を持っていませんでした。私たちはアジアの近隣諸国、特に韓国の高校と交流関係を作りたいと思いました。

成蹊高校では学習旅行という行事があります。夏休みや春休みに少人数の希望者と一緒に「学ぶ」ことを目的とした旅行です。当然、事前の授業やレポートの提出等の義



務もあります。長い間、学習旅行は国内に限られていたのですが、海外への学習旅行が可能になり、二〇〇〇年三月には韓国学習旅行が初めて実現しました。韓国の軍隊が駐留する三十八度線近くのオズ山統一展望台や第三トンネル等を見学し、冷戦の最前線の緊張関係を味わいました。また、独立記念館(八十二年の教科書問題を契機に設立)や西大門刑務所歴史館等を見学し、日本の植民地支配の実情を直接自分の目で確認することもできました。しかし、今の韓国の人々が、冷戦の恩恵を受けて繁栄した日本、かつて韓国を植民地にした日本をどう考えているのかは残念ながら間接的にしか伝わってきませんでした。やはり韓国の人々と直接交流することで日本、韓国、そして日韓関係について考えて欲しいと思いました。

二〇〇三年十二月に、私たちは初めて光新高校を訪れ、学習旅行の際に学校交流ができないうか相談しました。光新高校はソウル南部地区にある男女共学の私立の進学校で、百年以上の歴史があります。また、中学校と実務学校(日本の商業科にあたる)を併設しています。私たちは交流するのであれば、成蹊高校と共通点の多い学校の方が良いと思っていました。さら

に、学園の理事長は、旧制高校のつながりで以前より交流の深い学習院大学のご出身で、成蹊高校に対する認識も光新高校の側にあったことも幸いし、田溶海校長は我々の申し出を快諾してくれました。そして、以後交流を深め、お互いの信頼関係が築けたら姉妹校になることを約束しました。

二〇〇四年八月、成蹊高校の生徒が学習旅行で光新高校を訪問し、両校の交流がスタートしました。サッカーW杯の共同開催、「冬のソナタ」等の韓流ブームの中で日韓友好の感情が大きく盛り上がった年ということもあり、我々は光新高校の大歓迎を受けました。この時の様子は『学園広報五十五号』で紹介しました。しかし、二〇〇五年になると日韓関係が急速に冷え込みました。

光新高校の皆様は午後二時に来校され、三時まで校内を見学しました。三時二〇分から大教室で歓迎会を行いました。両校長の挨拶。成蹊の生徒の韓国語による挨拶。光新の生徒の日本語による挨拶。そして、谷校長(成蹊)と田校長(光新)との間で記念品が交換されました。その後、中高ストリングス部による歓迎公演が行われました。歓迎会の後、両校の生徒はグループを作って、都内見学に行き、夕食を一緒に食べて光新高校の宿舎に戻ってきました。戻ってきた生徒たちは最後の記念撮影、連絡先の交換と最後まで交流を楽しんでいました。国という壁を越えて、同じ高校生として有意義で楽しい時間を共有できたこと、また、同じような悩みを抱えている高校生としてお互いを理解できた満足感が伝わってきました。そして、高校一年の生徒たちは来年度の学習旅行での再会を約束していました。日本と一番近い国の高校生との交流、私たちは大切に育てていきたいと思っています。

光新高校の宿舎に戻ってきました。戻ってきた生徒たちは最後の記念撮影、連絡先の交換と最後まで交流を楽しんでいました。国という壁を越えて、同じ高校生として有意義で楽しい時間を共有できたこと、また、同じような悩みを抱えている高校生としてお互いを理解できた満足感が伝わってきました。そして、高校一年の生徒たちは来年度の学習旅行での再会を約束していました。日本と一番近い国の高校生との交流、私たちは大切に育てていきたいと思っています。

## 学習旅行「フィレンツェへの旅」

高等学校地歴科教諭 桂 正人

「あれは夢だったのですか」。ある生徒の感想です。はるばる飛行機を乗り継ぐと、東京の次の記憶がフィレンツェ。後は、むやみに歩き回り、見るものすべてに圧倒され、再び飛行機に乗り、気が付いたら自分の布団の中で朦朧としていた、といった具合だったようです。

心の片隅には「高校生には贅沢かな」という一念がいまだにあります。かつてホームステイをしたことがある関係で、土地勘のあるフィレンツェへのコースを設定しました。もとより「書を捨てて町に出よう」の時代ではありません。むしろ「書を持って町に出よう」、さらに昨今の情勢から「行けるときに行っておこう」をモットーに、感性豊かな若い時に「本物中の本物」を見る、

そこには十分な教育的意味があると信じて、企画を練りました。ヨーロッパのひと昔の青少年教育「パイディア」の仕上げがグランドゥッサーで、その最終目的地がイタリアでした。グランドゥッサーの足元には及びませんが、生徒を「ヨーロッパがぶれ」にするつもりはありません。事前に調査を行なわせ、歩きながらフィレンツェの時間と空間、香りと空気、音と光景を感じさせるようにしました。

七十二名の参加者全員が一人の遅刻もなく成田に集合したのが一月五日の早朝。搭乗後、シベリアの凍土の上を沈まない太陽と追いかけてくをしながら、バレンツ海、バルト海上空を経てフランクフルト到着。夜半にフィレンツェに投宿です。

実質二日間の見学です。午前は二班に分かれ、現地在住の日本人画家ご夫妻の解説をワイヤレス受信しながら、石畳の路地裏を歩いて目的地に向かいました。ウッフィッツ美術館では、ボッティチエリ、ミケッラ・レオナルド、ラファエッロの作品を中心に見学し、さらにヴェッキオ宮、サンタ・マリア美術館に足を運び、ピッツィ宮殿内のパラティーナ美術館を訪れました。ドゥオーモ入場後、家族経営のリストランテでトスカナ料理に舌鼓をうち、午後は三班に分かれて、事前の希望と調査による自由見学に充てました。ミケッランジェロ広場、中央市場、サンタ・マリア・ノヴェッラ教会、サンタ・クロチエ教会、サン・ロレンツォ教会、メディアチ家礼拝堂、アカデミア美術館、バルジェッロ博物館等を足が棒になるまで訪ね歩きました。さらにお土産を買い、パイルでエスプレッソを立ち飲みです。誰も文句をいわず、熱心に見て回る姿には、こち

らも感心しました。授業で扱うルネサンスは文献ヒューマニズムですが、ここでは視覚芸術が中心です。たとえば、生徒たちはブルネッレスキの偉業を、ドゥオーモのクーポラに昇る狭いらせん階段の中で、傾斜で身体を斜めにしながら確かめます。こんな重いものをどうやって載せたのか、という疑問は今も同じです。日本で偽装建築が問題となっていたこともあり、建築って何なのだろう、いやおうなしに考えさせられたことでしょう。適切な解説がついていたこともあり、「絵画の見方」「建築の見方」「街のあり方」など、いろいろ学ぶことができました。二年生は進路選択の時期でもあり、イタリア語・美術史・建築・哲学を志すことに変更した生徒もいると聞いています。今回のこのあわただしい旅行が、何かの形で生徒の成長の糧になってくれたらと期待します。

### 高校ラグビー部 全国大会出場！ 健康するも 抽選で初戦突破ならず

高校ラグビー部が、大阪・近鉄花園ラグビー場にて開催された第八十五回全国高校ラグビーフットボール大会に出場し、二〇〇五年十二月二十七日に天理高校と対戦しました。前年度準優勝校の強豪相手に成蹊らしい展開ラグビーを最後まで

で貫き通し、十二対十二の引き分けと大健闘しましたが、抽選の結果惜しくも二回戦進出はなりませんでした。

出場にあたっては、吉祥寺の各商店街様に応援の横断幕を掲出いただいたり、また大会当日はたくさんの卒業生、父母、在校生が東京をはじめ全国から応援に駆けつけてくださるなど、皆様から多くの力強いご声援をいただきました。

成蹊学園一同、心から感謝し、



御礼申し上げます。  
今年も花園目指して頑張れ、  
高校ラグビー部！





## 登下校のさらなる安全を

**昨** 年末、小学生の子どものた  
ちが犠牲となった悲惨な  
事件は、成蹊においても看過でき  
ない衝撃的なできごとでした。

小学校の普段の下校指導は、  
担当を決めて輪番に行うもので  
したが、十二月から全教員によ  
る毎日の引率下校指導に切り替  
え、三学期も継続してきました。

PTA役員の皆さんも応援し  
てくださるなど、子どもたちの  
下校に多くの目が行き届くこと  
は防犯上たいそう有意義なこと  
でした。

また、小学校では一年間を通  
じて、すべての保護者の方々に、  
バスの安全な乗車などを中心に  
したマナー指導をお願いしてい  
ます。



今年度も、これら教員と保護  
者による通学指導が相まって、  
子どもたちの安全な登下校が実  
現することを期待しています。

同時に、普段の整然とした通  
学マナーが、非常時の大人の協  
力につながるのだということを、  
子どもたちに気づかせる毎日の  
指導が大切だと考えています。

## 国際学級の新しいかたち

この四月から入学した国際  
学級四年生は、成蹊小学  
校の生活に慣れるための数週間  
を経て、東西南北の四学級に分  
散して混入する体制となります。

これまでの国際学級は、独立  
した帰国子女学級でした。日本  
とは異なる文化を持つ国々での  
生活という共通経験が、子ども  
たちの安心感や連帯感を醸し出  
していたことは大きな利点でし  
た。しかし、今後は、「子どもは  
子どもの中で育つ」という考え  
のもとに、新しい混入方式に移  
行していきます。

もちろん、国際学級と一般学  
級との交流は、一月実施の「国際  
理解の授業」などのように、これ  
までも活発に行われてきました。

これを一歩進め、毎日の生活  
を共にすることでより親近感を  
持ち、共に学び、新しい友達との  
交流を深めてほしいと願ってい  
ます。

また、帰国した子どもたちに  
必要な学習のケアは、一般学級



とは別のプログラムを組んで個  
別に対応することになっています。

## カメもカエルも お引越し！

**来** 年の四月から、小学校の  
本館と理科館が取り壊さ  
れ、新しい校舎を造る工事が始  
まります。

このため、現在本館と理科館  
の間にあるひょうたん池や理科  
室前の六角池などは、一年後に  
姿を消すことになりました。

これらの池は、理科やこみち  
の観察学習で利用するばかりで  
はありません。ひょうたん池周  
辺は、毎年カエルが産卵する大  
切な環境となっています。

これまでの様々な工事の際に  
も、どこからともなくやってく  
るカエルのために「専用通路」を

確保して生態を守ってきた経緯  
もあり、別の場所に産卵場所を  
設けることになりました。それ  
が、二月十八日に松林に完成し  
た仮設池です。

写真のような三〇×一・五mの  
立派な池です。はたして、この  
池をカエルたちが歓迎してくれ  
るかどうかが、一年後に、子ども  
たちが歓声をあげるほどのおた  
まじやくしが誕生するかどうかが  
気を揉んでいる小学校です。

## マラソン大会

**冬** の鍛練の行事はマラソン  
大会です。低学年一km、中  
学年一・五km、高学年二kmの桜並  
木や樺並木を周回するコースで、  
今年も全学年で実施されまし  
た。

保護者の方々の熱心な応援を  
得て、子どもたちは普段にも増  
してがんばりました。全学年の  
データを分析している体育科で



は、一kmあたりの子どもたちの  
タイムが六年間で特徴的な伸び  
を見せることも把握しており、  
一人ひとりの走力や耐久力を診  
断する手掛かりとなっています。

「昨日の我を超える」子ども  
たちの輝きこそ、鍛練的行事マ  
ラソン大会の醍醐味です。

## 第九十回卒業式

**三** 月十七日に、第九十回卒  
業式が学園大講堂で行わ  
れました。

卒業証書通し番号の最終は、  
九六二六番。卒業生百三十二名  
のうち百二十二名が成蹊中学校  
に、十名が他校に進学します。

五年生の演奏する「威風堂々」  
に送られた卒業生の前途は洋々  
です。多くの先輩の後に続いて、  
輝かしい未来を切り拓いてほし  
いと願っています。

# 健診の自動化によって得られたもの

## 導入のきっかけ

『長く待たされる…』自動化  
健診導入以前の大学生定期健康  
診断のイメージです。会場は三  
号館の四・六階ですが、六階の  
受付から長蛇の列が一階まで並  
ぶこともしばしばで、健診所要



## 自動化健診システムの導入

二〇〇二年度から順次、受診  
票のOCR化、ICカード利用、  
自動測定器の導入、LANを使  
用したデータの一元管理、Web  
上からの事前問診入力・結果閲  
覧等々の開発を段階的に行い、  
次年度はアンケート調査を問診  
入力と同時に実施できるように  
しました。回収率の高い調査を  
実施して学生の健康管理に役立  
てていきたいと考えています。

## 自動化健診システムの実際

受付にて各自の検査項目とバ  
ーコードの書かれた紙を手首に  
巻いてもらい各検査を回ります。  
各検査の測定結果は、自動  
測定器からパソコンに保存され  
ると同時にサーバーに送られま

## 得られたものは…

す。各検査のパソコン画面には、  
問診内容の他に、前年度と当日  
の検査結果が表示され、内容を  
参考にして診察・保健指導が行  
われます。受診票が不要で、数  
値を読み上げたり、書き写した  
りする必要がないため、情報が  
周囲にもれることなく、入力や  
記載ミスの心配もありません。  
また、検査結果を各自がWeb  
上から確認することになり、郵  
送から生じるトラブルを防止す  
ることができました。

健診の自動化により健康診断  
における精度の正確性・安全  
性・迅速性が確保され、個人情  
報保護機能の向上や、診察・保  
健指導の内容の充実へとつなが  
りました。健診所要時間は、約  
半数の者が三十分以内、約九  
十％の者が一時間以内に終えて  
います。健康診断の精度を上げ  
るということは、目に見えにく  
い部分ですが、学生の健診に対  
する、ひいては健康支援センタ  
ー・大学保健室に対する安心感  
や信頼感の向上にも繋がったと  
実感しています。

(養護教諭 瀧澤 信子)

## センター長の独り言

櫻井 勝

## 私

は、大海原の小船の上にあ  
った。船底の下には水深五  
〇〇メートルの凍てつく南氷洋が  
広がり、見渡す限り、他に船はない。  
ただただ広大な氷山と水平線、そ  
れと低く垂れ込める雲である。そ  
そり立つ氷山はアイガーの北壁を  
思わせる偉容であり、全てが大き  
く、透明感がある。人は圧倒的な  
自然の前では自分が小さく見える  
という。しかしそれは少し違つと  
思った。圧倒的なスケールの前で  
自分は小さいのだけれども、間違  
いなくそのスケールの一部となつて  
おり、自分なくしてはこの壮大な  
自然も不完全なものになるように  
感じたのだ。命というものに、小  
さからうと強い輝きを感じるよう  
に、死の存在が、生きることをより輝  
かせるように。自分も自然の一部  
として、なくてはならないと感じ  
るのである。いかなることがあ



うとも生命の尊厳は輝き続けると  
確信するのである。

『病院で死ぬということ』の著者  
で有名な山崎章郎医師もこの白嶺  
丸に船医として乗船していたとい  
う。大自然には命を実感させる力  
があるのだと思う。

私の五箱の医学書たちは、展望  
台として、私に医師として本当に  
大切なものを教えてくれたと感謝  
している。





●役職者

|            |       |
|------------|-------|
| ■成蹊学園      |       |
| 理事長        | 岸 曉   |
| 専務理事       | 橋本 竹夫 |
| 総務部長       | 池田 秀治 |
| 財務部長       | 野田 吉政 |
| 健康支援センター長  | 櫻井 勝  |
| 国際教育センター所長 | 武藤 恭彦 |
| 学園情報センター長  | 岩崎 学  |

|                |       |
|----------------|-------|
| ■成蹊大学          |       |
| 学長             | 栗田 恵輔 |
| 経済学部長          | 高木新太郎 |
| 大学院経済学研究科長     |       |
| 大学院経営学研究科長     |       |
| 理工学部長兼工学部長     | 廣田 明彦 |
| 大学院工学研究科長      |       |
| 文学部長           |       |
| 大学院文学研究科長      | 中里 明彦 |
| 法学部長           |       |
| 大学院法学政治学研究科長   |       |
| 大学院法学研究科長      | 廣部 和也 |
| 企画運営部長         |       |
| 学務部長           |       |
| 学生相談室長         | 牟田 悦子 |
| 学生部長           | 宮村 治雄 |
| 図書館長           | 西藤 洋  |
| アジア太平洋研究センター所長 | 鈴木 健二 |
| キャリア支援センター所長   | 北川 浩  |
| キャリア支援センター事務部長 | 秋庭 正典 |

|            |       |
|------------|-------|
| ■成蹊中学・高等学校 |       |
| 校長         | 谷 正紀  |
| 副校長        | 吉崎 純二 |
| 教頭         | 両角 雄功 |
| 教頭         | 和田 一誠 |

|        |       |
|--------|-------|
| ■成蹊小学校 |       |
| 校長     | 金納 善明 |
| 教頭     | 大場 繁  |

●学園組織一覧

|            |               |              |                   |                              |
|------------|---------------|--------------|-------------------|------------------------------|
| 法人         | 総務部           | 総務課          | 0422-37-3503      | 理事会に関すること                    |
|            |               | 人事課          | 0422-37-3505      | 教職員の人事に関すること                 |
|            |               | 広報課          | 0422-37-3517      | 学園の広報に関すること                  |
|            | 財務部           | 経理課          | 0422-37-3508      | 授業料に関すること                    |
|            |               | 管財課          | 0422-37-3511      | 学園寮に関すること                    |
|            |               | 募金課          | 0422-37-3941      | 募金活動に関すること                   |
|            | 健康支援センター      | 健康支援センター事務室  | 0422-37-3518      | 学園全体の健康管理に関すること              |
|            | 国際教育センター      | 国際課          | 0422-37-3536      | 留学、国際理解教育に関すること              |
|            | 学園情報センター      | 情報システム課      | 0422-37-3611      | 学園のネットワークに関すること              |
| 大学         | 企画運営部         | 企画運営課        | 0422-37-3531      | 学長・学部長、公開講座に関すること            |
|            |               | 研究助成課        | 0422-37-3705      | 研究助成に関すること                   |
|            |               | 入試課          | 0422-37-3533      | 大学入試に関すること                   |
|            | 学務部           | 授業課          | 0422-37-3703      | 授業全般、定期試験、聴講生に関すること          |
|            |               | 履修課          | 0422-37-3553      | 履修に関すること、卒業証明書の発行            |
|            | 学生相談室         |              | 0422-37-3807      | 充実した学生生活をサポート                |
|            | 学生部           | 学生生活課        | 0422-37-3539      | 学生の住所、保証人の変更、奨学金、クラブ活動に関すること |
|            |               | 大学保健室        | 0422-37-3518      | 大学生の健康管理に関すること               |
|            | 図書館           |              | 0422-37-3544      | 図書館の運用・管理                    |
|            | アジア太平洋研究センター  |              | 0422-37-3549      | アジア太平洋地域に関する共同研究の推進          |
| キャリア支援センター | キャリア支援センター事務室 | 0422-37-3537 | 就職活動、キャリア支援に関すること |                              |
| 中学・高等学校    | 中学・高等学校事務室    | 0422-37-3849 | 中学・高等学校に関すること     |                              |
| 小学校        | 小学校事務室        | 0422-37-3838 | 小学校に関すること         |                              |

【高等学校】

| 学年     | 募集人員 | 志願者 | 合格者 |
|--------|------|-----|-----|
| 第1学年   | 約80  | 361 | 182 |
| 海外帰国子女 | 若干名  | 49  | 14  |
| 第2学年編入 | 若干名  | 3   | 2   |

【中学校】

| 学年   |      | 募集人員         | 志願者        | 合格者      |
|------|------|--------------|------------|----------|
| 第1学年 |      | 男子70<br>女子40 | 288<br>153 | 95<br>60 |
| 国際学級 | 第1学年 | 約10          | 44         | 16       |
|      | 第2学年 | 若干名          | 5          | 2        |
|      | 第3学年 | 若干名          | 3          | 2        |

【小学校】

| 学年   |      | 募集人員 | 志願者 | 合格者 |
|------|------|------|-----|-----|
| 第1学年 |      | 112  | 898 | 112 |
| 国際学級 | 第4学年 | 14   | 19  | 12  |
|      | 第5学年 | 6    | 17  | 6   |

新任学部長略歴

【理工学部長兼工学部長】廣田 明彦（ひろた あきひこ）

1968年 室蘭工業大学工学部機械工学科 卒業  
1970年 東京工業大学大学院理工学研究科  
生産機械工学専攻修士課程 修了  
1973年 東京工業大学大学院理工学研究科  
生産機械工学専攻博士課程 修了  
東京工業大学工学部助手  
1974年 成蹊大学工学部講師  
1976年 成蹊大学工学部助教授  
1988年 成蹊大学工学部教授  
2006年 成蹊大学理工学部長兼工学部長  
成蹊大学大学院工学研究科長  
専門分野 機械加工学

【大学】

| 学部・学科 |              | 入学定員  | 一般入試 |        |        |       |     | AOマルデス入試 |     |     |
|-------|--------------|-------|------|--------|--------|-------|-----|----------|-----|-----|
|       |              |       | 方式   | 志願者    | 受験者    | 合格者   | 競争率 | 志願者      | 受験者 | 合格者 |
| 経済学部  | 経済経営学科       | 435   | A *  | 4,416  | 4,061  | 543   | 7.5 | 223      | 210 | 46  |
|       |              |       | C *  | 2,892  | 2,889  | 344   | 8.4 |          |     |     |
|       | 計            | 435   |      | 7,308  | 6,950  | 887   | 7.8 | 223      | 210 | 46  |
| 理工学部  | 物質生命理工学科     | 120   | A    | 501    | 395    | 104   | 3.8 | 34       | 33  | 14  |
|       |              |       | C    | 652    | 652    | 253   | 2.6 |          |     |     |
|       | 情報科学科        | 110   | A    | 589    | 489    | 92    | 5.3 | 39       | 38  | 16  |
|       |              |       | C    | 794    | 794    | 242   | 3.3 |          |     |     |
|       | エレクトロメカニクス学科 | 130   | A    | 448    | 353    | 73    | 4.8 | 38       | 36  | 18  |
|       |              |       | C    | 594    | 594    | 250   | 2.4 |          |     |     |
|       | 計            | 360   |      | 3,578  | 3,277  | 1,014 | 3.2 | 111      | 107 | 48  |
| 文学部   | 英米文学科        | 120   | A    | 744    | 682    | 188   | 3.6 | 61       | 61  | 12  |
|       |              |       | C    | 683    | 682    | 100   | 6.8 |          |     |     |
|       | 日本文学科        | 83    | A    | 634    | 580    | 120   | 4.8 | 43       | 43  | 8   |
|       |              |       | C    | 389    | 389    | 65    | 6.0 |          |     |     |
|       | 国際文化学科       | 100   | A    | 801    | 706    | 165   | 4.3 | 89       | 86  | 8   |
|       |              |       | C    | 520    | 520    | 114   | 4.6 |          |     |     |
|       | 現代社会学科       | 100   | A    | 683    | 616    | 138   | 4.5 | 44       | 43  | 8   |
|       |              |       | C    | 439    | 438    | 109   | 4.0 |          |     |     |
|       | 計            | 403   |      | 4,893  | 4,613  | 999   | 4.6 | 237      | 233 | 36  |
| 法学部   | 法律学科         | 250   | A    | 1,752  | 1,584  | 224   | 7.1 | 99       | 92  | 26  |
|       |              |       | C    | 1,688  | 1,686  | 342   | 4.9 |          |     |     |
|       | 政治学科         | 140   | A    | 910    | 797    | 126   | 6.3 | 68       | 66  | 19  |
|       |              |       | C    | 723    | 722    | 209   | 3.5 |          |     |     |
|       | 計            | 390   |      | 5,073  | 4,789  | 901   | 5.3 | 167      | 158 | 45  |
| 大学計   |              | 1,588 |      | 20,852 | 19,629 | 3,801 | 5.2 | 738      | 708 | 175 |

\* 経済学部A方式は「地歴公民型」と「数学型」の合計、C方式は「3科目型」と「5科目型」の合計です。

【大学院】

| 研究科・専攻   |          | 博士前期課程 |     |     | 博士後期課程 |     |     |
|----------|----------|--------|-----|-----|--------|-----|-----|
|          |          | 志願者    | 受験者 | 合格者 | 志願者    | 受験者 | 合格者 |
| 工学研究科    | 電気電子工学専攻 | 24     | 24  | 23  | 0      | 0   | 0   |
|          | 応用化学専攻   | 17     | 17  | 17  | 3      | 3   | 3   |
|          | 機械工学専攻   | 14     | 14  | 12  | 0      | 0   | 0   |
|          | 情報処理専攻   | 10     | 10  | 9   | 0      | 0   | 0   |
|          | 物理情報工学専攻 | 26     | 26  | 22  | 0      | 0   | 0   |
|          | 計        | 91     | 91  | 83  | 3      | 3   | 3   |
| 経済学研究科   | 経済学専攻    | 11     | 10  | 7   | 0      | 0   | 0   |
| 法学政治学研究科 | 法学専攻     | 1      | 1   | 1   | 2      | 2   | 1   |
|          | 政治学専攻    | 6      | 5   | 2   | 2      | 2   | 1   |
|          | 計        | 7      | 6   | 3   | 4      | 4   | 2   |
| 文学研究科    | 英米文学専攻   | 5      | 5   | 5   | 0      | 0   | 0   |
|          | 日本文学専攻   | 6      | 4   | 3   | 3      | 3   | 3   |
|          | 社会文化論専攻  | 13     | 13  | 9   | 2      | 2   | 1   |
|          | 計        | 24     | 22  | 17  | 5      | 5   | 4   |
| 経営学研究科   | 経営学専攻    | 39     | 36  | 17  | 0      | 0   | 0   |
| 法務研究科    | 法務専攻     | 555    | 524 | 111 |        |     |     |
| 大学院計     |          | 727    | 689 | 238 | 12     | 12  | 9   |